

科目名	地域活性化論 B 実習	教員名	藤木千草
実習先	株式会社地域法人 無茶々園（愛媛県西予市明浜狩浜 2-1350）		
実習期間	2023年2月6日（月）～10日（金）		
テーマ	まちづくりの実践現場を体験して地域課題への取り組みに対する視野・知見を広げる		

### 目的（実習のねらい）：

約40年前から柑橘類の有機栽培に取り組んでいる無茶々園は、農業だけでなく環境に配慮した真珠やちりめんなど海産物の生産、高齢者福祉、外国人実習生の人材育成、子どもの教育なども幅広く手がけ、都市の消費者との交流も積み重ね、この地域には魅力を感じた若者が数多く移り住むようになっている。その現場を訪問することで、まちづくりの本質や必要な要素を体感して学ぶ。また、授業中に考案してきた自分のまわりの課題解決のための事業プランを充実させる。

### 実習報告：

1日目 2月6日

12時にJR松山駅に集合し、特急で卯之町へ。

（送迎・移動はすべて無茶々園に依頼）

3日目の夕食が自炊のため、材料の買出し後に、無茶々園（廃校を利用した「かりえ笑学校」内）へ移動。

14:30 オリエンテーション

無茶々園の概要説明をうける。

実習中に考えるテーマは「移住を促進するためのプラン」とし、学生をグループ分けした。

18:00～21:00 夕食懇親会

宿泊先の食堂で、お世話になる皆さんと懇談した。



2月6日オリエンテーション

2日目 2月7日

9:00～12:00 農業実習

Aグループ Kさんの指導の下、ミカン畑での野焼きの手伝い

Bグループ Sさんの指導の下、柑橘類の選果作業の手伝い

12:00～13:00 昼食（かりえ笑学校にて）

13:30～16:00 海の研修体験

無茶々園グループの株式会社佐藤真珠で真珠や青のりの養殖についてお話を聞き、真珠養殖に使う網かごの修理作業を手伝う。また、海産物加工の祇園丸の工場を見学し、漁船に乗って狩浜漁港内をまわり、海から見える地域の状況を確認した。

その後、Kさん、Sさん、Aさん宅に分かれて宿泊（民泊）  
それぞれの生活状況などについてお聞きした。

3日目 2月8日

9:00~10:30

「かりえ笑学校」にて福祉事業（デイサービス・有料老人ホーム・訪問介護・居宅介護支援サービス等）の株式会社百笑一輝のお話を聞く。

10:45~11:15

「めぐみの里」（有料老人ホーム・デイサービス）の施設見学

11:30~12:30 宇和選果場見学

13:00~14:00 昼食

14:30~16:30 柑橘類の加工場見学及びジュースビンの点検と箱詰め作業手伝い



2月8日加工工場見学

4日目 2月9日

9:00~12:00

狩江公民館周辺と段々畑のガイドの後、公民館にて「かりとりもさくの会」の説明

12:00~13:00 昼食

13:00~16:00 段々畑の石積みの修復作業を体験



2月9日まちづくりの講義

5日目 2月10日

9:00~11:00

「かりえ笑学校」にて「移住を促進するためのプラン」まとめと発表準備

11:00~12:00 発表会

JR 卯之町駅に移動し解散



2月10日事業プラン発表



2月10日お世話になったみなさんと

## 成果

さまざまな分野の実習体験により下記について習得したり実践したりすることができた。

- ・地域住民のつながりが重要であること
- ・海外からの実習生も共に働きコミュニケーションをとり、帰国後も支援を続けるという関係性の価値
- ・うまくいなくても何かできないかと考えて挑戦していくこと
- ・誰かと共同で声をあげることで社会が変わっていく
- ・そこに行けば寂しくないという居場所づくりの重要性
- ・自分が魅力を感じたことを伝えていくことの楽しさ
- ・新しいものを生み出すだけでなく、既存のものを大切に生かして生かすこともまちづくりの方法
- ・人から必要とされると生きる価値が見いだせる
- ・山が荒れれば海も痩せるという密接なかわりかわりがわかり、ビジネスのあり方を再考する必要がある。
- ・協同組合という組織を知り価値を実感した。
- ・実習のプランに「自由に過ごす時間もあるとよい」など提案を出すことができた。

## その他

農業・漁業の実習や自炊、ロッジでの宿泊などとおして、学生同士、学生と教員の距離が縮まり、学び合うことができた。

兼任教員 藤木千草